



西村証券

チーフストラテジスト
門司総一郎の

ウィークリーレポート

2019年
10月28日
発行

第2回 加速する内需系企業の海外進出

初めに

先日発表されたファーストリテイリングの2019年8月期純利益は過去最高を更新しました。中国本土や香港、台湾など「グレーターチャイナ」と呼ばれる地域が好調だったとのことです。過去日本の株式市場では、海外市場は自動車、電機など輸出関連株、国内市場は食品、小売、サービスなど内需関連株といった、内外分業的な発想がありました。しかしその中で、最近ではファーストリテイリングの様に海外で稼ぐ内需関連企業が増えてきています。今回はこの内需関連企業の海外進出を取り上げます。

加速する内需系企業の海外進出

最近では海外で稼ぐ内需系企業が目立ちます。

例えばセブン&アイ・ホールディングスは2017年に米国のコンビニエンスストア、スノコを買収し、北米の事業を拡大しました。生活雑貨 無印良品を手掛ける良品計画の2019年3-8月期の営業利益のうち30%超は海外事業によるものです。

食品や家庭用品の分野でも内需系企業の海外進出は加速しています。中国や東南アジアで中間層が増え安全な食べ物や質のいいベビー用品などへの需要が高まった事が理由です。化粧品もそうです。インバウンドで日本の化粧品に慣れたアジアの消費者のために日本の化粧品メーカーはアジアの主要空港などに店舗を設けています。今後もこうした流れは変わらず内需系企業の海外進出はまだまだ続くと予想しています。

このように海外に事業を拡大する内需系企業がいくつも出ている理由は、今後日本で人口減が見込まれるため、このままであれば内需系企業は厳しい状況に立たされる可能性があるからです。そうした危機感が海外進出の原動力になっていると思います。

こうした動きは日本の株式市場にとって望ましいものと見ています。長年日本の株式市場を支えてきた自動車や電機等の競争力が昔ほどではなくなった今、内需系企業の海外進出と言う形で新しい産業が出て来る事は歓迎すべき事だと思います。

また、外国人投資家は日本の人口問題に懸念を抱いていますが、それは人口減により内需が減少し、内需系企業が立ちいかなってしまう事を警戒しているためです。しかし内需系企業の海外進出が進んでいる事を認識すれば、人口減に対する懸念は緩和されると考えています。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL:075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号
加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業
指定紛争解決機関:特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等のご遠慮ください。